

「虫がすきだ」

三年 山見 昂大

ぼくは虫がすきだ。セミとりは本当に面白い。セミがとまっている木を見つけると、そのうっとな近よってツユッとアミをかぶせてつかまえる。しっばいするとオツツコをかけられる。たまにオツツコをかけないヤツがいる。そいつはいいヤツだ。夕方、自分で人車で走っていると道のはしっこで、見かけない虫を見つけた。よく見るとセミのよう虫だった。ぬけ

からは、何度も見たことがある。でも中身の入ったよう虫を見のは初めてで、うれしくて持って帰った。そのよう虫を、家のアミ戸にくっつけたら、夜に羽化がはじまった。生まれたてのセミはいつも見ているセミとはちがった。体は白くて、羽はうすい緑色とてちがれいだ。セミはすごい。

すごいと言えは、ぼくのかっているカミキリ虫の「カミタロウ」もすごい。せ中に黄色の点々もようがあつて、しゅっかくが長くて、

つかまえるとキイキイ鳴いてかっこいい。

この、カミタロウは、今年の夏、家の畑の
キュウリの葉っぱにいたのを、ぼくがかま
えた。はじめは何の虫かわからなくて、田が
んで調べると「キボツカミキリ」ということ
がわかった。ワワの木やイチジクの木につく
かい虫だそうだが。畑には、そんな木はない。
き、とどこか遠くからとんで来たのだろう。
このまま畑にいたら、食べ物もないし、かい
虫だからそろそろされてしまうかもしれない。ぼ

くはかうことにした。

カミタロウは、こん虫ゼリーが大スキで、
とくにメロン味のこん虫ゼリーをよく食べる。
ぼくは今朝、カミタロウにきりかきで水をや
り、えさをとりがえたり、飼育ケースがよご
れていたらそういをする。そんな様子を見て、
お母さんが「この虫はカイテキなくらしやな
あ」とおもうていた。そして「冬はこせるの
かな」と言った。カミタロウ長生をしてほし
いな。

畑に行けば、いろいろな虫がいる。アゲハ、モンシロチョウ、トンボ、バッタ、コオロギ、カナブン、ミツバチ、カメムシ、ウリハムシ、テントウムシ、ヨトウムシ、アゲハのよう虫、スズメがのよう虫。お父さんといふに畑仕事をしながら、虫をつかまえたリ、時々、たいいする。にんじんの葉っぱにいた、アゲハのよう虫は、かっちょウになるまで育てた。せつまいもの葉っぱにいた、スズメがのよう虫はたいいした。バッタが少しいた。

ときは、つかまえて遊んだ。かえすぎると、たいいした。育てている野菜がダメになるからだ。ミツバチがとんでくるところわいからにげたけれど、受粉にひつような虫だと教えてもらった。アツナがバチは、葉っぱを食べていた何かのよう虫を覚えていた。

お父さんは、畑には虫がひつようだけれど、ふえすぎるのは問題だと言っていた。ぼくもそう思う。ぼくは虫がすきだけれど畑の野菜いをも虫が食べるのはいやだと思う。でも全部の

虫がいなくなっ^てもいやだ^{と思}う。

ぼくはも^っといろいろな虫を見たい、つか
まえたい、飼^いたい。森^の中でカブト虫やク
ワガタをと^ったり、まだ一回しか見たことか
ない、タマムシをたくさんつかまえてみたい。
アリのすも^んどうな^っているのが調べてみたい。
アリヅンゴクも今、さが^し中。図かん^でみたと
ても大きい外国の虫も見てみたいな。

ぼくは虫たいいもするけれど、や^っぱり虫
が好きだ。